

第2回ボタニカルアート展

伊藤 みゆきの世界

ボタニカルアート（植物画）とは

ボタニカルとは「植物の、植物学の」という意味。
つまり、ボタニカルアートは「植物学的な絵画」のことです。
「植物細密画」ともいい、植物図鑑の絵などがこれにあたります。

ボタニカルアートは、古代ギリシャの時代から薬草を見分けるために描かれていた図譜を起源とする、長い歴史を持っています。

博物画であると同時に芸術的な美も目指すボタニカルアートではその植物の特徴的な部分をとらえ、なるべくリアルに、かつ美しく描きます。正しく模写することよりも、種としての特徴や、ほかの種との違いがわかるように描くのがポイントです。

ボタニカルアート 4つの約束事

植物を正確に記録することを目的とするボタニカルアートには、4つの約束事があります。

- ◆ 実物大に描く
- ◆ 背景には何も描かない
- ◆ 植物の特性を変えない
- ◆ 人工的なものを描かない
(花瓶や植木鉢など)



伊藤 みゆき 稲沢市在住

家の庭や公園に咲く植物を目にするたび、その生き生きとした姿を描きたいと思っていました。図書館で植物細密画の本に出会いその精緻なまでの美しさに心を躍らせ、植物の持つ美しさ力強さに感動をもらいながら2007年ごろから少しずつ描き始めました。

現在は各地でご活躍中の小池昇司先生に師事しながら、植物画のコンクールに出展し多くの方々と交流することを楽しみにしています。

「誰でも気軽に始められる」をモットーとし、身近な植物との触れ合いを楽しみながら感動を与えられる画を描いていきたいと思っています。

今回の展示を機会にボタニカルアートを知ってもらえたら幸いです。

今回の作品は、植物の葉と実の美しさを集めてみました。